

RKU つながる新聞

第7号

☆この新聞は不定期発行です

障がい者チアチーム、四月に誕生へ

流経大チア部OGが「体験会」で朗らかに指導

知的障がいのある子どもたちのチアリーディングチ
ームの結成に向け、流通経済大学新松戸キャンパスで二月
十日、子どもたちを対象にした体験会が催された。会場
となった同キャンパス一号館一階の「RKUスクエア」
は参加した六人の子どもの躍動と笑顔に包まれた。

RKUスクエアに歓声弾ける！

チアリーディングチーム
は「誰一人取り残さない」
キャンパスと地域づくりを
目指す流経大の取り組みの
一環として、新年度からの
発足を目指しており、今回



笑顔の武藤さん(左)に導かれる参加した子どもたち。
RKUスクエアの中を笑顔で何周も駆け回った。

の体験会はそのメンバー募
集のきっかけとして催され
た。指導にあたるのは本学
卒業生で、大卒チアリーディ
ング部初代主将の武藤麻依
子さん(二〇

を武藤さん、市原さんのサ
ポートを受けながら楽しみ
学んだ。レッスンはおよそ
一時間あまり、最後はハイ
タッチなどを交えながら、
別れを惜しんだ。



武藤さん、市原さん(右)のサポ
ートでスタントが見事に決まった！

同部の
同期生、
市原華子さ
ん(同)のお
たり。開始前は「ちょっと
緊張してます」と話してい
た武藤さんだったが、チア
部員持ち前の笑顔と明るさ
で、参加した子どもたちを
あっといふ間に引き寄せた。
スクエア内を周回するラ
ンニングで始まったこの日
のレッスンは、「ラーメン
体操」などの音楽に合わせ
た振り付けや、基本的な技
の一つ、「スタント」など

二三年度の一年間をかけて
「日本知的障害者チアリー
ディング協会」と協力して
「体験会」を開催。その後、
本学オリジナルのチーム結
成のため、チア部OGの武
藤さんらに協力を求め、こ
の春のチーム結成にごぎつ
けた。チームの名称は武藤
さんらが考案した「Drea
m Mariners」。また
参加者の安全面などの確保
のため、地域スポーツクラ

プの運営実績があり、流経
大スポーツ健康科学部の卒
業生が主体となっているN
PO法人「クラブ・ドラゴ
ンズ」に運営業務を委託し
ている。
三月二日には第二回の体
験会を実施し、四月からは
月一回の練習会のほか、流
経大が実施している七月の
「海の日アクトフェス」や
秋の「であう広場」など年
三回の発表会を予定してい
る。

「モンズステーション」 常盤平団地に開設

流通経済大学(上野裕一
学長)が松戸市のUR都市
機構・常盤平団地に設置
した「RKU常盤平団地コ
モンズステーション」の開
所式が一月十六日に行われ
た。式には同団地の自治会
役員や市民団体の代表、松
戸市、URの関係者などお
よそ二十人が出席した。同
ステーションは一月下旬か
ら実際の活動をスタート、
同団地を舞台に流経大が掲
げる「共生社会づくり」へ
の新たな挑戦が始まった。
開所式は一月十六日午後
零時半からおよそ三十分間
行われた。冒頭、上野裕一

学長が、「誰ひとり残さな
いを掲げる流経大の取り組
みを、常盤平団地の皆さん
ともぜひ一緒に進めていき
たい」とあいさつ、学生を
主体としてかわつていく
ことの意義などを披露した。
一方、団地自治会の平野
将人副会長や外国籍の子供
たちを対象に教育活動を展
開する市民団体「外国人の
子どものための勉強会」の
海老名みさ子代表、常盤平
地区で子ども食堂の活動を
展開する「まんぷく小屋」
の中村佳子代表(左写真)



などから、それぞれの活動
の概要と今後の展開などを
交え、「モンズステーション」
への期待を込めた歓迎
の言葉が伝えられた。
同ステーションは、学生
と地域住民が「つながる場」
として今後利用される予定。